



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

# <2017年度-2018年度研究プロジェクト報告>キリスト教主義教育の展開：キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって：序言

著者	村瀬 義史
雑誌名	関西学院大学キリスト教と文化研究
号	20
ページ	63-65
発行年	2019-03-31
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10236/00027886">http://hdl.handle.net/10236/00027886</a>

## 2017年度－2018年度研究プロジェクト報告

### キリスト教主義教育の展開

－キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって－

研究プロジェクト代表 村 瀬 義 史

#### 序言

本報告では、研究プロジェクトの活動報告として、4つの研究報告の要旨と2018年10月12日（金）に関西学院吉岡記念館会議室1で実施したシンポジウム「キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって」における基調報告と質疑応答・討議（抄録）を掲載する。

まず、本プロジェクト設置の経緯について短く触れておきたい。1997年の設置以来、「平和」は本センターの関心事であり続けてきた。2009年には、キリスト教の視点から執筆された平和に関わる事典としては日本初となる『キリスト教平和学事典』を上梓した。そこでは、平和は単なる戦争の対概念ではなく、人間と自然の自己可能性の十分な開花を積極的にもたらすことに関わる事柄として、また、その開花を阻む様々な形の暴力の根絶、克服、止揚に関わる事柄として広く捉えられている。

「平和教育」は、広義には、教育基本法が定める教育の目的そのものに重なるが、昨今の世界情勢、東アジアで高まる国際的な緊張を背景に、教育機関において「平和教育」の重要性はますます高まっている。他方、国際関係学や平和教育学の発展に見られるように、「平和」や「平和教育」の概念は多義化、多様化してきた。戦争体験、被爆体験の継承を中心とする伝統的な「平和教育」は重要であり続けているものの、今日の国際・国内情勢や世界の平和教育の動向を視野におさめた、時代の要請にこたえる「平和教育」のあり方が研究者や教育者、その他の関係者によって盛んに議論されているのである。

こうした状況において、全人的教育の場であるキリスト教主義学校において重視されてきた「平和教育」はどうあるべきなのか。それを検証し、方向性を探ることはキリスト教主義教育を展開する上でのひとつの重要な課題である。こうした関心から本プロジェクトが立ち上げられ、2017年度から18年度にかけて研究活動を行ったのである。

プロジェクトメンバーは以下の通りである。

村瀬 義史（代表、センター副長、総合政策学部准教授）

舟木 讓（主任研究員、経済学部教授）

加納 和寛（主任研究員、神学部准教授）

水野 隆一（センター長、神学部教授）

打樋 啓史（主任研究員、社会学部教授）

東 よしみ（主任研究員、神学部准教授）

Ruth Grubel（社会学部教授）

望月 康恵（法学部教授）

奥本 京子（大阪女学院大学教授）

以下に掲載する報告は2部構成になっている。まず（1）において、プロジェクト期間中の研究会で報告された次の4つの研究報告の要旨を掲載する。

1. 2017年10月6日 第2回研究会 奥本京子氏（大阪女学院大学）  
「平和紛争学の基礎概念と平和教育の関係性」
2. 2018年1月22日 第3回研究会 野島大輔氏（関西学院千里国際中等部・高等部）  
「平和教育の歴史・現状・展望—千里国際キャンパスでの実践事例を添えて—」
3. 2018年3月20日 第4回研究会 望月康恵氏（関西学院大学）  
「国際社会において『平和』はどのように論じられてきているのか」
4. 2018年6月15日 第6回研究会 澤村雅史氏（広島女学院大学）  
「広島女学院大学および関西学院大学における平和教育」

—正課・非正課の実践を通して—」

続く(2)においては、2018年10月12日に開催されたシンポジウムでの、福島旭氏(関西学院中学部宗教主事)による研究報告「関西学院中学部聖書科における平和教育—教科化される『道徳』との比較を通して—」の内容とともに、シンポジウムでの質疑応答および討論の抄録を掲載する。このシンポジウムのねらいは、「キリスト教主義学校における平和教育のあり方」の規範を示すことではなく、われわれの共同研究の中で探求された論点を浮き彫りにすることにある。このテーマをめぐる研究や実践は今後も多様な形で継続されると思われるが、本プロジェクトがその一助になれば幸いである。